

三黙道場—修行道場ではクラスターは起きない—

住職 福島伸悦

昨年暮れ、長光寺本寺様・迦葉山龍華院ご住職羽仁素道老師の大本山永平寺副貫首就任の入寺式に出席して参りました。永平寺拝登するたびに修行時代を思い出し、身が引き締まる思いをします。厳粛に儀式が僧堂、承陽殿、法堂で行われました。末寺として大変名誉なことで誇らしい気持ちになりました。

修行道場では三黙道場というところがあります。東司（トイレ）、僧堂（寝る場所であり、食事をする場所であり、坐禅をする場所）、浴司（お風呂）の3か所はお話をするのが禁じられているところです。その他の場所であってもべらべらとお話をするということはなく最小限の公務に関するばかりです。行住坐臥全てが修行だということです。

現在、新型コロナ感染が世界中に猛威を振るっています。日本も第3波が来て特定地に緊急事態宣言が出されました。不要不急の外出の自粛、三蜜（密接・密集・密閉）を避け、手洗い、うがい、マスク着用が推奨されています。ウイルスの原因が、人との接触であったり、飛沫であったりすることがわかってきました。

考えてみると、800年も前から修行道場では変わらない修行をしているわけですが、色々な形で疾病対策ということがなされていたということだと思えます。200名近くの僧侶が共同生活をする上で、洗面の仕方から、トイレの使い方、お風呂の入り方等きめ細かに決められていることは、三黙道場の存在がいかに素晴らしい意味のあることかと改めて認識した次第です。

皆様におかれましては、政府の言う通り自分たちができることをしてこの難局を乗り越えなくてははいけません。政府の政策を批判するだけでなく、しばらくの間自粛しましょう。そして、一日も早くこの新型コロナ感染が終息することを願いましょう。